日本分類学会会報

JAPANESE CLASSIFICATION SOCIETY NEWS

No.36

2017.7

日本分類学会　会長挨拶

日本分類学会会長
栗原　考次

日本分類学会は，分類に関連する研究者の連帯協力および国際研究交流を通じて，わが国における分類研究の進歩発展を図ることを目的として，1983 年 6 月に「分類の理論と応用に関する研究会」として発足し，1991 年に「日本分類学会」に名称を変更いたしました．現在，（1）国内外組織との研究交流，（2）機関誌の発行，（3）学術的会合など，の 3 事業を中心に活動しています．2017 年は，「日本学術会議協力学術研究団体」の認定，国際分類学会連合 IFCS-2017 の日本開催など，本学会にとって嬉しいニュースが続いております．

（1）国内外組織との研究交流

本学会の目的にも掲げているように，国際研究交流は本学会の事業の大きな柱です．1985 年に国際分類学会連合 IFCS が設立されましたが，現在，18 カ国の学会が参加し，2 年毎の国際会議開催や各種の研究交流を行っています．本学会は創設時から参画し，2016 年から本学会員の岡太彬訓氏が会長を務められています．2017 年に第 15 回国際分類学会連合会議（IFCS-2017）を東海大学高輪キャンパスで開催します．学会設立当時から，本学会員による各国研究者との交流が盛んに行われており，日仏科学協力セミナー（1987, 1991）日独分類会議（2005, 2006, 2010, 2012, 2016, 2017），日伊分類シンポジウム（2012)を開催しています．国内の研究交流では，2005 年 2 月に応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，そして日本分類学会の 6 学会から成る統計関連学会連合が発足し，各種の研究交流を行い，関連学会との連携も図っています．

（2）機関誌の発行

2012 年から和文誌「データ分析の理論と応用」を発刊しています．論文誌では，理論や手法のみならず理論や手法の応用，データの分析，分析実例の提供など幅広い内容を対象としています．欧文誌では，2007 年からドイツ分類学会(German Classification Society）およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group）と共同で，Springer 社から年 3 回刊行しています．また，2018 年から，統計関連学会連合の official journal として Japanese Journal of Statistics and Data Science（JJSD）が刊行され，日本分類学会も協力する予定です．

（3）学術的会合など

学術的会合として，大会，シンポジウムの開催及びデータ分析セミナーを行っています．大会は，本学会員が一同に集う学術的会合で年 1 回開催しています．シンポジウムは，統計関連学会連合において，テーマを絞り本学会主催の企画セッションとして開催しています．データ分析セミナーでは，最近注目されているホットなテーマについて，本学会員が分かり易く解説します．その他，会報，ウェブページ，メールニュース及び Facebook 等を利用した広報活動，学会賞やフェローの選考・表彰を行っています．近年，「ビッグデータ」という言葉に代表されるように，計測技術の進

<目次>

・分類学会 会長挨拶 1
・役員改選 2
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告
　大会開催報告 2
　セミナー開催報告 3
　大会開催案内 4
　シンポジウム開催案内 4
・IFCS 関連案内 5
・学会賞について
　日本分類学会 2016 年度学会賞選考理由について 5
　学会賞受賞者より 6
・日本分類学会フェロー授与について
　日本分類学会 2016 年度フェロー授与選考理由について 9
・学会議事録等
　平成 28 年度総会議事録 10
　運営委員会議事録 16
　幹事会議事録 17
・事務局から 20

展により各分野で大規模データベースが構築され，研究対象は複雑化・大規模化しています．また，ICT の発達により，各種の活動等をデータ化し，インターネット等を通じてデータベース化した上で分析・活用する第４次産業革命の流れが急速に進んでいます．こうした社会のめまぐるしい変化の中で，統計解析の課題は大きく変貌し，情報を効果的・効率的に収集・集約し，革新的な科学的手法により知識発見や新たな価値を創造する高度な解析が求められています．

日本分類学会は，設立趣意書にありますように，科学における基本的操作である「分類」に関する研究を基礎理論と応用について一体になって行うことを目指しています．ここでの，「分類」は狭義の分類ではなく，あらゆる科学の基礎であるという広義の分類です．本学会は，社会の情勢がめまぐるしく変革していく中で，科学の基礎及びリテラシーである分類の基礎研究を進めると共に，社会のニーズに適応する新たな分類の学術的展開を図っていきます．

日本分類学会では，本学会の特色である国際研究交流のさらなる充実を図るとともに，新分野・新領域も含めた大会，シンポジウム，データ分析セミナーを開催いたします．さらに，各種の広報活動等の国内事業をこれまで以上の活性化を進め，新たな研究シーズの生成と会員の増加を推進してまいります．皆様には，本学会へのご支援，ご協力をよろしくお願いします．

役員改選

平成 29・30 年度の役員改選結果報告

会則に従い，平成 28・29 年度の役員改選を行いました． 2 名の選挙管理委員（清水信夫（統計数理研究所），小田牧子（防衛医科大学校））により開票を行いました．結果は以下の通りです．任期は平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までです．

平成 29・30 年度役員

会長（敬称略）

栗原　考次（岡山大学）

会計幹事（2 名：50 音順，敬称略）

林　　文（東洋英和女学院大学）

渡辺　美智子（慶應義塾大学）

運営委員（20 名：50 音順，敬称略）

足立　浩平（大阪大学）

今泉　　忠（多摩大学）

大隅　　昇（元統計数理研究所）

大津　起夫（大学入試センター）

岡太　彬訓（多摩大学）

狩野　裕　（大阪大学）

久保田　貴文（多摩大学）

酒折　文武（中央大学）

佐藤　美佳（筑波大学）

繁桝　算男（慶應義塾大学）

清水　信夫（統計数理研究所）

竹内　光悦（実践女子大学）

豊田　裕貴（法政大学）

中山　厚穂（首都大学東京）

馬場　康維（統計数理研究所）

林　　篤裕（名古屋工業大学）

水田　正弘（北海道大学）

宿久　洋　（同志社大学）

山口　和範（立教大学）

山本　義郎（東海大学）

横山　暁　（青山学院大学）

吉野　諒三（統計数理研究所）

また，運営委員会によって，以下の幹事会メンバーが承認されました．

平成 29・30 年度幹事長

山本　義郎（東海大学）

平成 29・30 年幹事（13 名，敬称略）

久保田　貴文（庶務，多摩大学）

冨田　誠　（庶務，東京医科歯科大学）

小田　牧子（会計，防衛医科大学校）

酒折　文武（広報，中央大学）

竹内　光悦（企画，実践女子大学）

豊田　裕貴（企画，法政大学）

佐藤　美佳（渉外，筑波大学）

宿久　洋　（渉外，同志社大学）

中山　厚穂（渉外（国際学会活動），首都大学東京）

水田　正弘（渉外（国際学会活動），北海道大学）

岡太　彬訓（ジャーナル，多摩大学）

今泉　忠　（IFCS，多摩大学）

山本　義郎（IFCS，東海大学）

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第 35 回大会開催報告

大会実行委員長 豊田　裕貴（法政大学経営大学院）

日本分類学会第 35 回大会は，2017 年 3 月 6 日(月)・7 日（火）法政大学新一口坂校舎にて開催されました．大会初日の 3 月 6 日にはデータ分析セミナー「セグメンテーションとターゲティングのための分類手法」，「少数事例の分析のための QCA（質的比較

分析）」が開催されました．セミナー後から開催された大会においては 2 日間にわたって 13 件の講演と IFCS2017 特別パネルディスカッションが行われ，セミナーと合わせて 57 名の参加者により活発な討論が行われました．実行委員長として発表者の皆様，参加者の皆様に感謝を申し上げます．

大会における各セッションの講演は以下の通りです．

テーマセッション「ビジネスへのデータ分析の活用」（3 月 6 日 14:45～16:15）

・コンビニエンスストアにおける課題解決型店舗分類
溝口憲司（法政大学経営大学院）
・地域の統計データを利用した生活者意識の予測
三戸千穂（東京ガス株式会社）・稲垣勝之（東京ガス株式会社）・谷沢仁美（東京ガス株式会社）・豊田裕貴（法政大学）
・逐次確率比検定を用いてマーケティングの意思決定を支援する
松本健太郎（株式会社ロックオン／マーケティングメトリックス研究所）

IFCS-2017 特別講演「ビジネスにおけるデータ分析と分類手法」（3 月 6 日　16:25～17:00）
今泉忠（多摩大学・日本分類学会会長）

第 1 セッション：（3 月 7 日 09:30～11:00）

・熊本地震後の Tweet データからの有益な情報の抽出と分類
船山貴光（東海大学大学院）・山本義郎（東海大学）・内田理（東海大学）
・アソシエーションルール分析と可視化のための数量化手法の比較
山田実俊（東海大学大学院）・山本義郎（東海大学）
・放射線関連 Tweet データを用いたデータ分析と分類
久保田貴文（多摩大学）

第 2 セッション：（3 月 7 日 12:30～14:00）

・NPB における打球角度による打者の分類
今田一希（東海大学大学院）・山本義郎（東海大学）
・多次元多値項目反応理論を用いた統計検定の問題の評価について
土田潤（同志社大学大学院）・宿久洋（同志社大学）
・QCA を活用した顧客セグメンテーション
豊田裕貴（法政大学）

第 3 セッション：（3 月 7 日 14:10～16:10）

・非計量データに対する制約付き主成分分析法について
山岸勇輝（同志社大学）・谷岡健資（和歌山県立医科大学）・宿久洋（同志社大学）
・国際比較調査における回答傾向の比較分析
角田弘子（日本ウェルネススポーツ大学）・吉野諒三（統計数理研究所）
・Ward 法に関する 2 つの方法論的考察
宮本定明（筑波大学）・阿部亮介（筑波大学）
・支持政党の変化と競合関係 III -非階層非対称クラスター分析-
岡太 彬訓（立教大学）・横山暁（帝京大学）

○セミナー開催報告

・2016 年度第 2 回データ分析セミナー開催報告
第 2 回データ分析セミナー担当
鶴見裕之（横浜国立大学）

2017 年 1 月 23 日（月）に第 2 回データ分析セミナー「ロールプレイで学ぶデータ・サイエンス入門」が公益財団法人流通経済研究所に会場を提供していただき開催されました．

セミナーでは，これからデータ・サイエンスを学びはじめる方を想定した入門セミナーとして，グループワーク形式で行われました．ロールプレイ（グループワーク形式）を始める前に鶴見裕之講師（横浜国立大学）よりビジネス上の問題解決のためのフレームワークについて解説されました．つづいて「顧客の離脱を阻止せよ！」というテーマでロールプレイが実施され，発表・議論がなされました．日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数（計 19 人）ご参加いただきました．

・2016 年度第 3 回データ分析セミナー開催報告
第 3 回データ分析セミナー担当
豊田裕貴（法政大学経営大学院）

2017 年 3 月 6 日（月）に第 3 回データ分析セミナーが第 35 回大会（法政大学）とともに開催されました．

セミナーは，2 部構成で実務家向けのセミナーとして，マーケティングデータを活用する分析方法について行われました．第 1 部は，土田尚弘講師（株式会社日本リサーチセンター）による「セグメンテーション

とターゲティングのための分類手法～R によるクラスタリングの活用～」で，ビジネスデータを実際に解析する方法や当該目的を達成するための R の使用方法について解説されました. 第 2 部は, 豊田裕貴講師 (法政大学) による「少数事例の分析のための QCA（質的比較分析）～R による QCA 分析の入門～」で，少数の事例から因果関係を解釈するための方法について解説されました．日本分類学会会員のみならず非会員の方にも多数（計 29 人）ご参加いただきました.

〇大会開催案内

日本分類学会第 36 回大会開催について

実行委員長 水田正弘（北海道大学）

日本分類学会第 36 回大会を, 2017 年 12 月 4 日 (月) ～12 月 5 日（火）に札幌コンベンションセンターにて開催することとなりました．札幌での開催は 2012 年のシンポジウム（統計関連学会連合大会期間中）以来です．多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております．講演申し込み方法など追加情報は, 日本分類学会のウェブページ http://bunrui.jp/ にてお知らせいたします.

●場所

札幌コンベンションセンター 206 会議室
〒003-0006
札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1
http://www.sora-scc.jp/

●スケジュール

発表申込締切： 2017 年 10 月 27 日（金）
予稿集原稿提出締切： 2017 年 11 月 6 日（月）
懇親会申込締切： 2017 年 11 月 21 日（火）（変更の可能性があります）
大会参加申込締切： 2017 年 11 月 30 日（木）
大会　： 2017 年 12 月 4 日（月）・5 日（火）
（4 日 (月) に懇親会を予定しております）

●大会参加費

正会員・シニア会員 4,000 円，学生会員 2,000 円
非会員 8,000 円，学生非会員 4,000 円
＊当日，会場でお支払いください.

●懇親会費　未定

大会についてのお問い合わせは，水田正弘までお願い致します.

北海道大学情報基盤センター　水田正弘
mizuta@iic.hokudai.ac.jp

〇シンポジウム開催案内

2017 年度統計関連学会連合大会企画セッション「日本分類学会シンポジウム『テストデータの分析』をめぐって」のご案内

飯塚 誠也（岡山大学）

オーガナイザーを椎名久美子氏(大学入試センター)として，2017 年度統計関連学会連合大会企画セッション「日本分類学会シンポジウム『テストデータの分析』をめぐって」を開催いたします．ご関心がおありでしたら，奮ってご参加くださるようお待ちしております．また，お近くの方にも，ご案内いただけると幸いです.

日本分類学会学会誌「データ分析の理論と応用」Vol.6 の特集「テストデータの分析」では，テストで測られる能力に関する実証的な検討，識別力を向上させるためのテスト開発，構成概念をより正確に測定するための手法の提案など，テストをめぐる幅広いテーマの論文が採択されました．企画セッションでは，テストで測られる能力をより深く捉えるための手法についての議論を行う材料として，特集の中から以下の論文に関する基調講演を行い，指定討論者のコメントに基づいて総合討論を行います.

会場へのアクセスなど 2017 年度統計関連学会連合大会に関する情報は，http://www.jfssa.jp/taikai/2017/ をご覧ください．会員の皆様の多数の参加をお待ちしております.

・椎名久美子(大学入試センター)
「テストデータの分析」をめぐって―企画の意図―
・坂本佑太朗(株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)・柴山直(東北大学大学院教育学研究科)
学力テストの下位領域に関する多次元 IRT 分析
・安野史子(国立教育政策研究所)・宮埜寿夫(大学入試センター)
数学試験の解答形式に関する一考察―記述形式の解答方略に着目した分析―
・寺尾尚大(名古屋大学・日本学術振興会特別研究員)・石井秀宗(名古屋大学)・野口裕之(名古屋大学)
キーセンテンスと錯乱枝の語の重複・設問タイプが錯乱枝の選択率 に及ぼす影響― 英語文章読解テストを用いた実証的検討 ―
・北條大樹(専修大学大学院文学研究科)・岡田謙介(専修大学人間科学部)
評定尺度における反応傾向を考慮した係留寸描データのベイズ的項目反応モデル

指定討論者：村上 隆（中京大学）

IFCS 関連案内

○IFCS-2017 開催準備状況

IFCS-2017 組織委員会委員長　今泉　忠
IFCS-2017 実行委員会委員長　山本義郎

IFCS-2017 大会組織委員会・日本分類学会・東海大学・国際分類学会連合を主催団体，統計数理研究所と日本観光協会（JNTO）を共催団体として，第 15 回国際分類学会連合会議（IFCS-2017）が 2017 年 8 月 8 日から 8 月 10 日の期間に東海大学高輪キャンパスで開催されます．会員の皆様の様々なご協力により，日本からの参加登録者数も 150 名近くなり，全体として参加登録数も 300 名を大きく超えております．招待講演 5 件，特別セッション 49，コントリビューテッドセッション 17 構成で約 260 件の発表がございます．そのためにパラレルセッションも 12 セッションと多くなり，皆様に興味深い内容が重なってしまうかもしれません．プログラムなどは http://ifcs.boku.ac.at/ifcs2017 で確認できますので，ぜひダウンロードしていただき，ご参加いただければと思います．IFCS-2017 の参加事前登録もこのサイトから可能でございます．また，8 月 7 日に開催します Workshop では以下の 3 コースを実施します．当日参加も可能でございますので，会員の皆様にもご参加いただければと存じます．

Course#1: Latent class modeling: basics, extensions, and recent advances

Course#2: Survey Analytics from Questionnaires and Textual Social Media Analytics. With Accompanying Practical Sessions, examples and case studies in English and other languages.

Course#3: Predictive modeling in R

詳しい内容については，http://bunrui.jp/IFCS2017/ を参照していただければと存じます．

学会賞について

○ 日本分類学会 2016 年度学会賞選考理由について

今泉 忠（多摩大学，日本分類学会前会長）

日本分類学会賞として日本分類学会貢献賞・日本分類学会論文賞・日本分類学会奨励賞があります．この度，　第三回日本分類学会賞に関する授賞候補者を選考し，　運営委員会で決定し総会におきまして授賞式を行いました．ここでは，各授賞者に関する受賞理由を要約して述べることで，授賞者を祝するとともに皆様の研究促進の一助になればと存じます．

2016 年度の授賞者として，貢献賞は林文会員，論文賞は，中山厚穂・増田純也・鶴見裕之会員（対象論文: 中山厚穂・増田純也・鶴見裕之(2015). 製品時系列を考慮した Twitter 上のトピック分類．特集号「クラスター分析の新展開」），奨励賞は，寺田吉壱　会員（大阪大学），松井佑介 会員（名古屋大学），山田実俊　（学生）会員（東海大学）の 3 名の方が選ばれました．以下，簡単に選考理由について述べます．

日本分類学会貢献賞

林文　会員（東洋英和女学院大学名誉教授）

主な選考理由

林知己夫氏による数量化理論は世界的に有名であり，本学会の研究の発展に大きな貢献をしてきましたが，林文氏はその発展の初期のころから，林知己夫氏の主要なブレーンとして長年にわたり応用と普及に貢献してされてきました．これに関しては，まだ各種の統計ソフトウェアが一般には構築されていない時代から，数量化理論のソフトウェアの開発・運用に携わり，社会調査や市場調査を含む広範な分野への数量化理論や多次元データ解析の普及に繋がってきました．

また，長期継続調査「日本人の国民性」調査を中心に，半世紀に及び厳密な統計的標本抽出法に則った各種の社会調査データの収集及びデータの尺度水準に応じた適正なデータ解析法の適用など，研究及び教育啓蒙への貢献をされてきました．この間，本学会のみならず，日本行動計量学会や社団法人・社会調査協会などの他の密接に関連する関連学会でも数々の要職につき，官民学の社会調査の適正な遂行に関して指導，監督の任務を果たし，本学会の理念の実現に貢献されてきました．

総じて，「データの科学」としての実証データの収集と解析における優れた研究業績及び教育や指導に著しい貢献を成してきました．

日本分類学会論文賞

中山厚穂会員（首都大学東京）

増田純也会員（（株）インテージ）

鶴見裕之会員（横浜国立大学）

主な選考理由

中山厚穂氏・増田純也氏・鶴見裕之氏の授賞対象論文となりましたのは，特に，日本分類学会和文誌「データ分析の理論と応用」に掲載されました中山厚穂・増田純也・鶴見裕之(2015). 製品時系列を考慮した Twitter 上のトピック分類．特集号「クラスター分析の新展開」.「データ分析の理論と応用」, Vol.4, pp. 17-41 ． であります．特集号担当編集委員は，宮本定明館員でありました．詳しい論文内容は，和文誌を参照していただければと存じますが，漠とした内容

は，「製品」に関して twitter 上のデータを集積し，それらをトピックに応じて分類を施すのですが，その際に製品販売の「時系列」をも考慮した分類をするものであり，その理論と具体的なデータの適用を試みているものです．同論文は特集号の一部として発刊されており，同特集号の各論文は全て査読を経た一定水準以上のものでありますが，総合的に考慮して，本論文を本年度の「論文賞」として適切と判断しました．

日本分類学会奨励賞
寺田吉壱会員（大阪大学）
松井佑介会員（名古屋大学）
山田実俊学生会員（東海大学大学院）

2016 年度は 3 名の方が授賞されました．

主な選考理由

寺田吉壱 会員は，IFCS 2013 での発表 Terada, Y. (2013). Asymptotic of Reduced K-means Clustering, IFCS 2013: The 2013 Conference of the International Federation of Classification Societies, Tilburg University, Tilburg, the Netherlands (July 15 - 17, 2013)や The European Conference on Data Analysis 2014 のみならず，関連学会でも精力的に研究発表を重ねておられます．さらに https://sites.google.com/site/teradahp/presentation にみられるように研究発表大会における活動だけでなく，論文業績を含め，着実に業績を積み重ねてきております．過去にも候補として挙げられておりましたが，以前は「奨励賞」が「学生会員」に限定されていたことがあり，見送られておりました．現行の規定では，その限定が外れていることも考慮し，同会員が奨励賞授賞者としてデータ解析の理論，方法，多様な分野での応用に大きく寄与すると考えられます．

主な選考理由

松井佑介 会員は，日本分類学会 第 33 回大会での発表「関数データクラスタリングにおける部分区間の同定法と学習ログデータへの適用」，日本分類学会第 33 回大会，3 月 3 日，帝京大学（http://www.yokoyamalab.org/societies/jcs33rdmeeting/#program）のみならず，日本分類学会シンポジウム「分類理論の最前線」2016 年度 統計関連学会連合大会などでも活躍し，研究発表の面で顕著な貢献をしております．また「データ分析の理論と応用」Vol.4 の特集号論文にも見られるように，論文業績も着実にあげており，今後のさらなる活躍も期待されます．

主な選考理由

山田実俊 （学生）会員は，日本分類学会大会 33-34 回や日独分類学会など，頻繁に本学会及び関連学会にて研究発表を進めております．また，研究発表会における発表のみならず，「データ分析の理論と応用，2016, Vol.5, pp.3-16」においても「対応分析を用いたアソシエーションルールによるアンケート結果の可視化（山田 実俊・ 山本 義郎共著）」も発表しております．同会員が学生であることも考慮し，今後もさらなる活躍が期待できると考えられます．

〇学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

林　文（東洋英和女学院大学）

この度は日本分類学会貢献賞をいただき，大変光栄に存じます．私にとりまして身に余ることでございます．

日本分類学会にどのように貢献することができたかを改めて考えて見ました．私は，私の研究のほぼ全てをご指導下さいました林知己夫先生に従って，小さなお手伝いをしてきたに過ぎません．林知己夫先生の数量化理論は，よく知られた数量化Ⅰ，Ⅱ，ⅢあるいはそれプラスⅣ，それに引き続き，新たなデータの分析の課題に即した方法，MDA-OR，MDA-UO，APM などですが，私はそのプログラミングを通して，実際のデータの扱いについて検討する場に加わらせて頂きました．また，野生動物生息数推定のための調査に毎年のように同行し，雪の中で野兎の足跡を数えたことは今も忘れられない思い出となっております．現場を重視するという考え方のもとに実施された調査のひとつです．お化けを怖いと思うかどうかなどを問うた「基底意識」を探る調査も行いました．のちに「お化け調査」とも呼ばれたものです．私は最近まで関心を持ち，どのように変化してきたか探索してまいりました．最近は Web 調査も用い，こうした調査内容について，調査方法の検討も行っています．

現場に赴き，データそのものに向き合い，地道に眺めるという姿勢でデータ分析に関わってきたことを「貢献」と認めて頂いたとすれば，大変ありがたく存じます．

技術が発達した今日であれば野生動物の生息数の調査も簡単に済むと思われがちですが，現場の大切さは昔とは違った意味でやはりあるのではないでしょうか．

林　文
（はやし　ふみ）
日本女子大学家政学部家政理学科数学専攻卒業．統計数理研究所助手，東洋英和女学院大学助教授，教授を経て，同大学名誉教授，統計数理研究所客員教授．日本分類学会運営委員，幹事，編集委員等，日本行動計量学会理事，和文誌編集委員長，等を担当．

日本分類学会論文賞を受賞して

中山　厚穂（首都大学東京）
増田　純也（株式会社インテージ）
鶴見　裕之（横浜国立大学）

この度は日本分類学会の論文賞という栄誉に浴し，著者全員が身に余る光栄と感じております．今回の対象としていただいた論文「製品時系列を考慮したTwitter上のトピック分類」は，市場動向をとらえるソーシャルリスニングのためのツールとして注目されていたTwitterにおける新製品についての書き込みを分析対象として，新製品発表からの時系列に沿って，どのような内容がどのようなタイミングで書き込まれているのか，また企業のコミュニケーション戦略とツイートの関連性はどのようになっているのかということに注目して研究を行った成果をまとめたものとなっています．その結果，当該製品についての書き込みのタイプの分類やその質および量の時系列的な変化，また企業のコミュニケーション戦略との関連性をとらえることができ，課題はあるものの一定の成果を上げることができたと考えております．しかし，研究対象としていたTwitterの字数制限の緩和，新たなSNSが登場しテキスト･データだけではなく画像データの解析，も求められるようになるなど，ソーシャルリスニングを取り巻く環境は日々変化しています．そのため，それらの変化に対応した研究が必要とされており，これまでの研究成果をもとに，今後も発展的な研究を行っていきたいと考えます．そして，研究活動を通して分類やデータ分析の分野の発展に貢献できるように励んでいきたいと思います．今後とも，ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます．

最後に，本稿をまとめるにあたっては有益で建設的なご助言を賜りました査読者の方に感謝申し上げます．また，本研究は公益財団法人吉田秀雄記念事業財団の平成23年度第45次研究助成，科研費若手研究(B)（課題番号：25730019）の成果の一つです．本テーマについて議論する研究の場を与えていただけたことは，本論文をまとめる上で大きな力になりました．ここに記して感謝の意を表します．そして，テレビ広告出稿データをご提供いただきました株式会社ビデオリサーチの関係の皆様方に深謝申し上げます．

中山　厚穂
（なかやま　あつほ）
立教大学経営学部助手・助教，長崎大学経済学部准教授を経て，2010年より首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻　准教授．

増田　純也
（ますだ　じゅんや）
立教大学社会学研究科応用社会学専攻修士課程修了(2005年)　データ分析のフリーランス，(株)電通マーケティングインサイト(現電通マクロミルインサイト)を経て，2014年より(株)インテージにてデータ分析業務に従事．

鶴見　裕之
（つるみ　ひろゆき）
立教大学大学院 社会学研究科 応用社会学専攻 博士課程後期課程 修了(2007年)．
社会学（博士）
公益財団法人流通経済研究所を経て，2010年より横浜国立大学 経営学部 准教授．

日本分類学会奨励賞を受賞して

寺田吉壱（大阪大学）

この度は，奨励賞を頂くことができ，大変光栄に思います．これも偏に多くの先生方のご指導，ご鞭撻の賜物であり，深く感謝しております．

自身の研究では，クラスタリングを始めとする教師なし学習を中心に扱っております．教師なし学習は，大規模なデータから我々にとって意味のある情報を探

索的に見つけるために重要な役割を担います．そして，教師なし学習に関する研究は，機械学習のコミュニティで著しい発展を見せています．恥ずかしながら，私は，博士課程在籍中に機械学習分野で著名なUlrike von Luxburg教授の下を訪れるまで，機械学習分野において発表されている重要な研究に十分に目を向ける事ができていませんでした．データ解析の重要性が広く認知された今日では，統計学，機械学習などの垣根にとらわれることなく，データ科学というより広い視野で研究を進めていくことが重要であると考えております．また，データ科学の発展には，理論のみでなく実データ解析に目を向けることが大切であると感じています．

今後は今回の受賞を励みとして，Wiley's Statistics Viewsにおける Bradley Efron教授の言葉「The challenge is always the same: to develop truly useful new ideas for the understanding of real world problems.」を胸に留め，研究を進めて行きたいと思います．そして，研究活動を通して，微力ながら日本分類学会の発展に貢献できればと考えております．まだまだ未熟ではございますが，今後ともご指導ご鞭撻のほど，宜しくお願い申し上げます．

寺田　吉壱
（てらだ　よしかず）
2005年3月 同志社大学文化情報学部 卒業，2011年3月 同志社大学 大学院文化情報学研究科 博士課程(前期課程) 修了，2014年9月 大阪大学 大学院基礎工学研究科 博士後期課程修了，2014年4月 - 2016年3月 国立研究開発法人情報通信研究機構 研究員，2016年4月 - 現在 大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教，2017年5月 - 現在 理化学研究所 革新知能統合研究センター 客員研究員（兼任).

日本分類学会奨励賞を受賞して

松井佑介（名古屋大学）

この度は栄えある賞をいただき大変光栄です．これまでにご指導・ご鞭撻をいただいた諸先生方および分類学会の先生方，また，北海道大学在学時の指導教官である水田正弘教授にこの場を借りて厚く御礼申し上げます．

私はこれまで，関数データや分布値データ，木構造値データなど複雑データに対する解析手法の開発に取り組み，日本分類学会やIFCS，統計連合大会で発表して参りました．関数データでは福島県のリアルタイム放射線センシングデータを念頭に部分領域の特徴を捉えつつ関数全体をクラスタリングする方法(松井他2015, データ分析の理論と応用)について研究し，分布値データではがんのオミクスデータを念頭に二群間で分布構造の差異を統計的に検定する手法を開発しました(Matsui et al. 2016 Bioinformatics)．また，最近ではがんの進化系統樹の集まりを想定し，木構造のトポロジーと辺属性値に基づく木構造値クラスタリング手法(Matsui et al. 2017 PLoS Comp. Biol.)を研究しております．

私は現在，ゲノムやプロテオームといったオミクスデータを解析するためのバイオインフォマティクス手法の開発に取り組んでおりますが，特に分類手法は疾患に関わるパターンをオミクスデータから同定する方法論として非常に重要な部分を担っております．IFCS2017では特別セッション「SP07: The cutting edge of biomedical big data - From bioinformatic methodologies to data analysis」を企画する機会もいただきました．その際には，生命科学データにおける有用なデータ解析手法について分野横断的に議論させていただければ幸いに存じます．

今後も，この度いただいた賞を励みに，有用なデータの分類・解析手法の開発に貢献していきたいと存じます．今後ともご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い申し上げます．

松井　佑介
（まつい　ゆうすけ）
平成23年3月 北海道大学　工学部情報エレクトロニクス学科 卒業，平成25年3月 北海道大学大学院情報科学研究科 複合情報学専攻 修士 修了，平成26年12月 北海道大学大学院情報科学研究科 複合情報学専攻 博士後期課程 修了(1年9か月短縮修了)，平成27年1月－現在 名古屋大学大学院医学系研究科付属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター・システム生物学分野 特任助教，平成27年1月－現在 名古屋大学リーディング大学院・実世界データ循環学リーダー養成プログラム 特任助教(兼任).

日本分類学会奨励賞を受賞して

山田　実俊（東海大学大学院）

この度は，日本分類学会奨励賞という栄えある賞をいただき，大変光栄に存じます．今回の受賞は，これまでご指導ご鞭撻いただきました諸先生方や皆様方に寄るところが大きく，心より御礼申し上げます．特に，学部生のころより，ご指導いただきました東海大学理学部の山本義郎教授には厚く御礼申し上げます．

受賞対象の発表が３つありましたが，属性特化型特徴抽出アソシエーションプロットという，対応分析で変数についてデータの全体的な関係をマッピングし，アソシエーションルール分析である属性に関するルールを矢印で表現する可視化について，日本分類学会 第33回大会ではアンケートデータを用いて，日本分類学会 第34回大会では抗菌薬データと薬剤耐性検査データを合わせた医療データを用いて，5th German-Japanese Symposium on Classification では２つを合わせた内容を発表させていただきました．また，この可視化はアソシエーションルール分析と対応分析の相互を補っていることが評価され，「データ分析の理論と応用」の第５巻にも記載されました．さらに，属性を持つ２値データに変換することで，医療データにも用いることができ，共同研究者である東海大学医学部の諸先生方にも評価され，大変光栄に存じます．

今回の受賞を励みとして，良い研究ができるように研究活動に邁進していきたいと考えております．まだまだ未熟ではありますが，今後ともご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い致します．

山田　実俊
（やまだ　さねとし）
2013年３月東海大学理学部卒業，2015年３月東海大学大学院理学研究科修士課程修了，2017年７月現在東海大学大学院総合理工学研究科博士課程在学中．

日本分類学会フェロー授与について

○日本分類学会 2016 年度フェロー授与選考理由について

今泉 忠（多摩大学，日本分類学会前会長）

日本分類学会として2016年度よりフェロー授与制度を設置して，初回のフェロー授与者として，以下の方々が総会で報告されました．

西里静彦氏(トロント大学)，上田尚一氏　（元・龍谷大学），大隅昇氏(統計数理研究所)，岡太彬訓氏(立教大学)，高倉節子氏(統計数理研究所)，馬場康維氏(統計数理研究所)，宮原英夫氏(豊橋創造大学)，矢島敬二氏(東京理科大学)，林文氏(東洋英和女学院大学)

授与理由

フェロー制度によるフェロー授与は，本年度が初めてである．これまで本学会に多大な貢献をしてきた現会員のうち，フェロー制度の趣旨に沿って今後も本学会に積極的に参画し，本学会の活性化の支援をしてくれる方々を想定した．これを念頭に，各人の個人業績の詳細を列挙せずとも，本学会の多くの会員の了解を得られると思われるレベルの方々を選考することとした．

まず，会長経験者について，該当する会員を確認し，物故者及び現在は非会員となってしまっている２名を除き，各人が会長職としての任務を含め，研究の発展，関連事業の展開など，学会への貢献が多大であったことを確認した．これは，上記リストの「大隅，岡太，馬場，矢島，上田」の各会員に該当する．

その他，会長経験者ではないが，高倉，宮原，林の各会員は本学会の草創期から研究及び学会の運営に関して顕著な貢献をしている．これらの会員は，会長経験者とともに，各実証的分野における分類学の研究の発展，本学会の関連事業の運営にも多大な貢献をしてきた方々でもある．

さらに，西里会員は海外での研究生活を続けているため本学会の運営面に参画する機会は必ずしも多くはなかったが，分類学に関する世界的研究を展開し，結果として，「分類に関する研究の発展」に関しては同世代の研究者の中では比肩するものがいない．特に近年では，後進への研究指針を示すように，本学会誌「データ分析の理論と応用」に再三論文を発表し，また本学会の特別シンポジウムや関連学会で研究発表を繰り返している．総合的に考えて，同会員もフェローとして相応しいと判断した．

学会議事録

〇平成 28 年度総会議事録

開催日時：平成 29 年 3 月 7 日（月）　16：30～17：30

開催場所：法政大学経営大学院（新一口坂キャンパス）

出席者：30 名

総会の開会に先立って，2016 年度日本分類学会賞授賞式及び，フェロー授与式が開催された．吉野学会賞選考委員長より受賞者および選考理由が紹介された．

■2016 年度日本分類学会賞授賞式

2016 年度日本分類学会賞授賞式において，林 文氏（東洋英和女学院大学）に貢献賞，中山 厚穂氏（首都大学東京）・増田 純也氏（株式会社インテージ）・鶴見 裕之氏（横浜国立大学）に論文賞，寺田 吉壱氏（大阪大学），松井 佑介氏（名古屋大学）および山田 実俊氏（東海大学）に奨励賞が授与された．

■フェロー授与式

西里 静彦氏（トロント大学），上田 尚一氏，大隅 昇氏（統計数理研究所），岡太 彬訓氏（立教大学），高倉 節子氏，馬場 康維氏（統計数理研究所），宮原 英夫氏（豊橋創造大学），矢島 敬二氏，林 文氏（東洋英和女学院大学）にフェローの称号が授与された．

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により総会が開会された．

■議長の選出

議長として統計数理研究所の清水信夫氏が推薦され，承認された．

【議題】

■報告事項

1. 選挙結果について

久保田庶務担当幹事より，選挙結果が報告された．

2. 大会の次回開催校について

次期大会委員長の栗原考次氏（岡山大学）より開催場所については参加者の動向やセミナーの開催時期を考慮しながら東京もしくは岡山での開催を予定していること，開催時期については，12 月もしくは 1 月に開催することが報告された．

3. 統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について

今泉会長より統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について運営委員会にて継続審議中である旨が報告された．

4. その他

その他の報告事項はなし．

■審議事項

1. 平成 27 年度事業報告ならびに平成 28 年度事業計画の修正について

久保田庶務担当幹事より，平成 27 年度事業報告ならびに平成 28 年度事業計画の修正について提案があり，審議の結果，承認された．

2. IFCS-2017 関連事業（セミナー等）について

今泉会長より，IFCS-2017 関連事業について，予算に関連項目が入るが財政的負担を伴うものではない旨が提案され，審議の結果，承認された．

3. 日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について

今泉会長より，日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について，将来的には予算に関連項目が入るが財政的負担を伴うものではない旨が提案され，審議の結果，承認された．

4. 平成 28 年度事業報告ならびに決算報告について

久保田庶務担当幹事から平成 28 年度事業報告について，河野会計担当幹事から平成 28 年度決算報告について説明があった．審議の結果，一部文言の修正の上，承認された．

5. 平成 29 年度事業計画ならびに予算案について

久保田庶務担当幹事から平成 29 年度事業計画について，河野会計担当幹事から平成 29 年度予算案について説明があった．審議の結果，一部文言の修正の上，承認された．

6. 会則の改定について

今泉会長より会則第 6 条の改訂案が提案され，審議の結果，承認された．

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により総会が閉会された．

日本分類学会 平成 28 年度事業報告

平成 29 年 3 月 7 日

1. 第 35 回大会，セミナー，シンポジウムの開催

第 35 回大会を平成 29 年 3 月 6 日（月）～7 日（火）に法政大学市ヶ谷キャンパスで開催した（実行委員長：豊田裕貴氏（法政大学経営大学院），発表件数 14 件）.

2016 年度第 1 回データ分析セミナー：自由記述式調査データの解析を平成 28 年 7 月 15 日（金）に河野康成氏（立教大学リーダシップ研究所）を中心に開催し，2016 年度第 2 回データ分析セミナー：ロールプレイで学ぶデータ・サイエンス入門を平成 29 年 1 月 23 日（月）に鶴見裕之氏（横浜国立大学）を中心に開催し，2016 年度第 3 回データ分析セミナーを平成 29 年 3 月 6 日（月）（第 35 回大会会期中）に豊田裕貴氏（法政大学経営大学院）を中心に開催した.

日本分類学会シンポジウム「分類理論の最前線」を平成 28 年 9 月 5 日（月）（統計関連学会大会会期中）に横山暁氏（帝京大学)を中心に開催した.

2. 第 35 回総会の開催

第 35 回総会を第 35 回大会開催中の平成 29 年 3 月 7 日（火）に法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催した.

3. 運営委員会，幹事会の開催

(1) 平成 27-28 年度運営委員会は第 6 回をネット上で開催し，議事録の確定を審議し，承認した．第 7 回はネット上で開催し，フェロー内規の承認について審議し，承認した．第 8 回は平成 28 年 9 月 7 日（水）（統計関連学会連合大会会期中）に金沢大学角間キャンパスにて開催し，予算報告・予算案の修正について，平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業計画の修正について，入会承認について，選挙管理委員の選出について，議事録の承認について，審議し，すべて承認した．第 9 回はネット上で開催し，入会について審議し，承認した．第 10 回はネット上で開催し，学会賞・フェロー候補者について審議し，すべて承認した．第 11 回は平成 29 年 3 月 7 日（火）（第 35 回大会会期中）に法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催し，幹事長の選出，幹事会の構成，次回大会について，次回セミナーについて，IFCS-2017 関連事業（セミナー等）について，日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について，平成 28 年度事業報告ならびに決算報告について，平成 29 年度事業計画ならびに予算計画について，統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について，会則の改定について，総会議題，入退会について，検討し審議を行った.

(2) 平成 27-28 年度幹事会は，第 4 回をネット上で開催し，ドメインサービスの契約業者の変更について審議し，承認した．第 5 回は平成 29 年 3 月 6 日（月）（第 35 回大会会期中）に法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催し，次回大会について，次回セミナーについて，平成 28 年度事業報告ならびに決算報告について，平成 29 年度事業計画ならびに予算計画について，IFCS-2017 関連事業（セミナー等）について，日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について，統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について，総会議題について検討し審議を行った.

4. 会報，ウェブページ，メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に，学会活動の告知および報告を会報（No.35 を平成 28 年 12 月発行）およびウェブページにて発信を行った．加えて，速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し，適宜会員への情報提供を行った.

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行，ADAC（欧文ジャーナル）の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第 6 巻第 1 号の発行を行った．また ADAC への発行協力および投稿支援を行った.

6. 学会賞について

平成 28 年度の学会賞を授与した.

7. フェローについて
フェローの称号を授与した.

8. 次期役員選挙
次期役員選挙を行った.

9. 学術会議への登録
本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて，必要な書類等を確認し，申請を行った.

10. IFCS-2017 について
IFCS-2017 の主催団体として開催の準備を進めた.「IFCS-2017:ビッグデータとデータ分析・分類手法」を平成 28 年 9 月 5 日（月）（統計関連学会大会会期中）に今泉忠氏（多摩大学)を中心に開催した. 平成 28 年 12 月 8 日（木）に今泉忠氏（多摩大学）を中心に，また平成 29 年 2 月 25 日に豊田裕貴氏（法政大学経営大学院）を中心にセミナーを開催した.

11. 5th German-Japanese Workshop on Classification
2016 年 9 月 12 日～13 日にギュンツブルク（ドイツ）で開催される 5th German-Japanese Workshop on Classification の開催を支援した.

12. 他学会との交流と協力
(1) 統計関連学会連合へ参加し，2016 年度統計関連学会連合大会の共催，同大会プログラム委員会および運営委員会への参加を行った
(2) 国際分類学会(IFCS)への協力し，分担金の負担を行った
(3) IFCS 傘下学会への協力を行った
(4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った

平成 28 年度決算

日本分類学会

単位:円

科　目	予算額	決算	増 減	備　考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	18,000	8,000	2,000 円×9 人
2 会費収入	571,000	584,784	13,784	納入率 67%
正会員	525,000	515,000	△ 10,000	5,000 円×103 人(納入率:68%)
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000 円×2 人(納入率:67%)
学生会員	10,000	13,784	3,784	2,000 円×7 人(納入率:57%)
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円×1 口(納入率:50%)
前年度以前分	0	20,000	20,000	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	306,468	362,480	56,012	
論文集売上	0	5,360	5,360	バックナンバー販売(郵送費含む)
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	180,000	180,000	0	50,000×3社+30,000×1社(Vol5)
別刷代金	24,300	31,752	7,452	別刷り(Vol.5およびVol.6)立替分
論文誌関係雑収入	102,168	145,368	43,200	Tex化料金(Vol5)、カラー印刷代金(Vol5およびVol6)立替分
4 雑収入	360,000	591,369	231,369	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	360,000	271,360	△ 88,640	年3回実施
寄付・広告等	0	50,000	50,000	第34回大会補助費返還
利子収入	0	9	9	銀行口座利子
IFCSセミナー費	-	270,000	△ 270,000	2回実施(平成28年度より新規項目として開始)
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙積立より繰入
A 当期収入合計	1,272,468	1,581,633	309,165	
B 前期繰越収支差額	1,169,677	1,169,677	0	
C 収　入　合　計(A+B)	2,442,145	2,751,310	309,165	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	565,000	0	565,000	
和文誌(Vol.6)	565,000	0	565,000	2017 年4月に発行予定
論文誌関係雑支出	0	0	0	
その他	0	0	0	
2 事業費	290,000	561,955	△ 271,955	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	50,000	93,613	△ 43,613	講師謝礼等
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞経費	35,000	122,000	△ 87,000	学会賞表彰状経費、フェロー認証証経費、受賞者の花代・大会参加費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	50,000	26,342	23,658	
J-Stage学会誌公開費用	100,000	0	100,000	
IFCSセミナー費	-	270000	△ 270,000	2回実施(平成28年度より新規項目として開始)
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	37,257	9,743	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	36,828	8,172	会議弁当代
その他	2,000	429	1,571	会計監査会議費・学会賞選考委員会会議費
4 事務費	134,932	122,163	12,769	
業務委託費	50,432	50,432	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	28,466	△ 3,466	
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,283	217	ドメイン更新料
会報印刷費	39,000	38,880	120	会報 No.35
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	0	1,102	△ 1,102	
5 通信・郵送費	36,000	75,598	△ 39,598	
会報等送料	25,000	31,285	△ 6,285	
会費請求等連絡通信費	6,000	12,738	△ 6,738	会費請求に関する資料等の送付
その他	5,000	31,575	△ 26,575	学会賞・フェローなどの郵送費等
6 負担金	20,216	25,432	△ 5,216	
IFCS	0	0	0	隔年で2年分払いのため2016年度はなし
統計関連学会連合	20,216	25,432	△ 5,216	2016年分(振込手数料を含む)
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	0	0	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,124,148	852,405	271,743	
E 当期収支差額(A－D)	148,320	729,228	△ 580,908	
F 次期繰越収支差額(C－D)	1,317,997	1,898,905	△ 580,908	
G 支　出　合　計(D+F)	2,442,145	2,751,310	△ 309,165	

日本分類学会会則第 10 条に基づき，平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果，決算報告書の通り相違ないことを認めます．

平成 29年 7月 19日

会計監事　林 篤裕　印

会計監事　竹内 光悦　印

(実際の修正済みの決算報告書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 29 年度事業計画

平成 29 年 5 月 26 日

1. 第 36 回大会，セミナー，シンポジウムの開催
第 36 回大会を平成 29 年度中に開催する．また，3 回程度セミナーを開催する．シンポジウムを平成 29 年 9 月（統計関連学会連合大会会期中）に開催する．

2. 第 36 回総会の開催
第 36 回総会を第 36 回大会開催中に開催する．

3. 運営委員会，幹事会の開催
(1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する
下記事項を検討課題とする．
・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
・総会の議題
・その他検討の必要な課題
(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する．

4. 会報，ウェブページ，メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信
広報担当幹事を中心に，学会活動の告知および報告を会報（No.36 を平成 29 年 6 月発行）およびウェブページにて発信する．加えて，速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し，適宜会員への情報提供を行う．

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行，ADAC（欧文ジャーナル）の発行協力
日本分類学会編集委員会を中心に第 7 巻第 1 号の発行を行う．また ADAC への発行協力および投稿支援を行う．

6. 学会賞について
平成 29 年度の学会賞を授与する．

7. フェローについて
フェローの候補者を検討し，適切な会員にフェローの称号を授与する．

8. IFCS-2017 の準備
IFCS-2017 の主催団体として活動を進める．

9. 第 6 回日独分類シンポジウム
2017 年に開催される第 6 回日独分類シンポジウム（2017 年 8 月 11 日～12 日，多摩大学品川キャンパス）の開催を支援する．

10. 他学会との交流と協力
(1) 統計関連学会連合へ参加する．2017 年度統計関連学会連合大会の共催，同大会プログラム委員会および運営委員会への参加
(2) 国際分類学会(IFCS)への協力，分担金の負担
(3) IFCS 傘下学会への協力
(4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

平成 29 年度予算(案)
平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科　目	予算額	前年度予算	増　減	備　　考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	575,000	571,000	4,000	
正会員	525,000	525,000	0	5,000 円×(152人×0.69≒105人) として算出
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000 円×(3人×0.67≒2 人) として算出
学生会員	14,000	10,000	4,000	2,000 円×12人×0.59≒7 人) として算出
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円×1 口として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	310,000	357,120	△ 47,120	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	180,000	180,000	0	論文誌 Vol. 6 の広告収入. 実績より算出
別刷代金	30,000	31,752	△ 1,752	別刷り(Vol.6)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	145,368	△ 45,368	TeX化料金, カラー印刷代金(Vol6)立替分
4 雑収入	900,000	360,000	540,000	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	400,000	360,000	40,000	実績より年3回で算出
国際活動関連(セミナー費)	200,000	−	200,000	平成29年度より開始
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
IFCSセミナー費	300,000	−	300,000	平成28年度より開始
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙費用積立より繰入
A 当期収入合計	1,820,000	1,323,120	496,880	
B 前期繰越収支差額	1,898,905	1,169,677	729,228	
C 収　入　合　計(A+B)	3,718,905	2,492,797	1,226,108	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	630,000	565,000	△ 65,000	
和文誌(Vol.7)	500,000	565,000	65,000	送料を含む
別刷代金	30,000	0	△ 30,000	
論文誌関係雑支出	100,000	0	△ 100,000	
その他	0	0	0	
2 事業費	835,000	290,000	△ 545,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	160,000	50,000	△ 110,000	年3回で, 講師謝礼・資料作成費等
IFCSセミナー費	300,000	−	△ 300,000	平成28年度より開始
国際活動関連(セミナー費)	200,000	−	△ 200,000	平成29年度より開始
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	70,000	35,000	△ 35,000	表彰状・フェロー認定証経費, 花代, 大会参加費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	0	50,000	50,000	平成29年度選挙なし
J-Stage学会誌公開費用	50,000	100,000	50,000	
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	47,000	0	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	45,000	0	実績より算出
その他	2,000	2,000	0	実績より算出
4 事務費	134,932	134,932	0	
業務委託費	50,432	50,432	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	25,000	25,000	0	実績より算出
ADAC 事務連絡費	2,000	2,000	0	該当者のみ発送. 購読費は会費に上乗せ. 実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	実績より算出
会報印刷費	39,000	39,000	0	会報 No.36. 実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内, プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	60,000	36,000	△ 24,000	
会報等送料	30,000	25,000	△ 5,000	会報 No.36, 学会からのお知らせ. 実績より算出
会費請求等連絡通信費	15,000	6,000	△ 9,000	会費請求に関する資料等の送付. 実績より算出
その他	15,000	5,000	△ 10,000	大会(総会)案内, 他学会へのメール便, 学会での送付物
6 負担金	78,216	20,216	△ 58,000	
IFCS	58,000	0	△ 58,000	200ドル×2年分(2017年度・2018年度分)および海外送金等経費
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	平成29年分. 振込手数料を含む
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則, 独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	25,000	0	選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	0	0	0	IFCS 負担金支払いのための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,816,148	1,124,148	△ 692,000	
E 当期収支差額(A－D)	3,852	198,972	195,120	
F 次期繰越収支差額(C－D)	1,902,757	1,368,649	△ 534,108	
G 支　出　合　計(D＋F)	3,718,905	2,492,797	△ 1,226,108	

〇運営委員会議事録

・平成 27-28 年度第 9 回運営委員会（ネット）

日時:平成 29 年 1 月 31 日～2 月 8 日
（メールによる審議）
下記の議題について審議し，承認された.
議題 1. 入会承認について

・平成 27-28 年度第 10 回運営委員会（ネット）

日時:平成 29 年 2 月 9 日～2 月 16 日
（メールによる審議）
下記の議題について審議し，承認された.
議題 1. 学会賞候補者
議題 2. フェロー候補者

・平成 27-28 年度第 11 回運営委員会

開催日時：平成 29 年 3 月 7 日（月）11：00～12：30
開催場所：法政大学経営大学院
（新一口坂キャンパス）305 教室
〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-3-9
出席者：今泉忠（会長，多摩大学），中山厚穂（幹事長，首都大学東京），大津起夫（大学入試センター），栗原考次（岡山大学），酒折文武（中央大学），豊田裕貴（法政大学），馬場康維（統計数理研究所），林文（東洋英和女学院），宿久洋（同志社大学），山本義郎（東海大学），横山暁（帝京大学），吉野諒三（統計数理研究）（会長，幹事長以外五十音順，敬称略）
陪席者：岡太彬訓（立教大学，平成 29-30 年度運営委員），河野康成（立教大学リーダーシップ研究所，会計担当幹事），久保田貴文（多摩大学，庶務担当幹事，平成 29-30 年度運営委員），清水信夫（統計数理研究所，平成 29-30 年度運営委員）（五十音順，敬称略）

■開会の挨拶
今泉会長の挨拶により運営委員会が開会された.

議題
■報告事項
1. 運営方針について
久保田庶務担当幹事より，選挙結果が報告された.
2. 学術会議への登録について
久保田庶務担当幹事より，学術会議への登録について申請済で，先方での審議中である旨が報告された.酒折幹事より学会誌等について質問があった旨，補足説明があった.
3. その他
岡太編集委員長より，今後編集委員長の選出の規定を編集委員会にて起案し，運営委員会へ諮る予定である旨が報告された.

■審議事項
1. 幹事長の選出
平成 29-30 年度の幹事長について，会則に従い，運営委員会から推薦および会長の推薦をもとめ，山本義郎運営委員を幹事長とすることが提案された．審議の結果，承認された.

2. 幹事会の構成
栗原次期会長より，会長・幹事長とで早期に幹事会の構成を決定する予定である旨が報告された.

3. 次回大会について
今泉会長より，大会委員長として栗原考次氏（岡山大学）に開催場所として岡山等を候補地でという案が提案された．審議の結果，大会委員長として栗原考次氏が承認され，開催場所，開催時期については，大会委員長に一任することが承認された．なお，栗原考次氏より開催場所については参加者の動向やセミナーの開催時期を考慮しながら東京もしくは岡山での開催を決定すること，開催時期については，12 月もしくは 1 月に開催することが報告された.

4. 次回セミナーについて
今泉会長より，次回セミナーについては平成 27-28 年度幹事会で開催する旨，2017 年 6 月に豊田裕貴氏（法政大学）を中心に開催する旨が提案され，また，セミナー開催の目的として，新規会員獲得および運営費獲得の 2 つの目的を考慮してセミナー参加費等を検討することが説明された．審議の結果，承認された.

5. IFCS-2017 関連事業（セミナー等）について
今泉会長より，追加資料 5 に基づいて，IFCS-2017 関連事業について，予算に関連項目が入るが財政的負担を伴うものではない旨が提案され，審議の結果，承認された．また，総会に諮ることが承認された.

6. 日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について
今泉会長より，追加資料 6 に基づいて，日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について経緯について説明があり，議題 5 と同様に，将来的には予算に関連項目が入るが財政的負担を伴うものではない旨が提案され，審議の結果，承認された．また，総会に諮ることが承認された．さらに，将来的に財政

を支援できる体制づくりを計画すること，会員への周知の方法等については継続審議となった．

7. 平成 28 年度事業報告ならびに決算報告について
平成 28 年度事業報告について，久保田庶務担当幹事より資料１－１に基づいて提案があり，文言を修正の上，総会に諮ることが承認された．また，平成 28 年度決算報告について，河野会計担当幹事より資料１－２に基づいて提案があり，文言の修正の上，総会に諮ることが承認された．なお，事業報告の中でセミナーの具体的な報告が必要である旨が提案され，継続審議となった．それに関連して，豊田セミナー担当幹事より，2017 年 2 月に開催されたセミナーについて報告された．

8. 平成 29 年度事業計画ならびに予算案について
平成 29 年度事業計画について，久保田庶務担当幹事より資料２－１に基づいて提案があり，項目および文言を修正の上，総会に諮ることが承認された．また，平成 29 年度予算案について，河野会計担当幹事より資料２－２に基づいて提案があり，文言の修正の上，総会に諮ることが承認された．
また，山本委員より J-Stage への公開費用について，編集委員会で出た公開のタイミングについて補足説明があり，公開のタイミングについては即時ということで承認された．
さらに，平成 29 年度事業計画のうち平成 29 年 9 月（統計関連学会連合大会会期中）に開催予定のシンポジウムについて，久保田庶務担当幹事より資料「2017 年度統計関連学会連合大会 企画セッション案」に基づいて提案があり，審議の結果，承認された．今後の方針として学会賞受賞者講演についても検討する必要がある点などが議論され，継続審議となった．
河野会計担当幹事より，会費未納者への催促について問題提起があり，審議の結果，過去に会費未納者について運営委員会でリストを回覧することが承認された．

9. 統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について
今泉会長より，資料 3 および追加資料 9 に基づいて，統計関連学会連合の欧文ジャーナル刊行について，および統計家の行動基準の提案について提案された．他学会等の動向についても情報共有がなされた．統計関連学会連合の欧文ジャーナル刊行については，目的とスコープを調査にした上で，委員を出すことを含めて前向きに検討すること等が継続審議となり，その旨を総会に報告することが承認された．統計家の行動基準の提案についても継続審議となり，その旨を総会に報告することが承認された．
また，今泉会長より，次期統計関連学会連合の理事として，栗原考次氏（岡山大学）および山本義郎氏（東海大学）の 2 名が提案され，審議の結果，承認された．

10. 会則の改定について
今泉会長より資料 4 に基づいて会則第 6 条の改訂案が提案され，審議の結果，承認された．

11. 総会議題(案)
久保田庶務担当幹事より，総会の議題が提案され，項目の追加と文言の修正の上，総会に諮ることが承認された．

12. 入退会について
久保田庶務担当幹事より入会および退会ともに 0 件である旨が報告された．

13. その他
5 年以上会費未納の会員のリストが回覧された．

■閉会の挨拶
今泉会長の挨拶により運営委員会が閉会された．

○幹事会議事録
平成 27-28 年度第 5 回幹事会議事録
開催日時：平成 29 年 3 月 6 日（月）12：30～16：20
開催場所：法政大学経営大学院（新一口坂キャンパス）305 教室
〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-3-9
出席者：今泉忠（会長，多摩大学），岡太彬訓（多摩大学），久保田貴文（多摩大学），河野康成（立教大学リーダーシップ研究所），酒折文武（中央大学），山本義郎（東海大学），横山暁（帝京大学）　（五十音順，敬称略）

■開会の挨拶
今泉会長の挨拶により幹事会が開会された．

議題
■報告事項
1. 選挙結果について
久保田庶務担当幹事より，選挙結果が報告された．
2. 学術会議への登録について
久保田庶務担当幹事より，学術会議への登録につい

て申請済で，先方での審議中である旨が報告された．酒折幹事より学会誌等について質問があった旨，補足説明があった．

3. 会員種別の変更について

久保田庶務担当幹事より種別が変更になる会員について，報告があった．

■審議事項

1. 次回大会について

今泉会長より，次回大会および次回セミナーについて現状の報告があり，審議の結果，大会委員長として栗原考次氏（岡山大学）に開催場所として岡山等を候補地として依頼することとなった．また，大会および総会の開催時期についても審議され，現在の３月開催ではなく，12 月や 5 月の開催へ移行することを希望する旨を打診することとなった．

2. 次回セミナーについて

次回セミナーについても審議事項1.と同時に審議され，2017 年 8 月までに開催する案については，平成 27-28 年度セミナー担当の方で企画することが承認された．

3. 平成 28 年度事業報告ならびに決算報告について
（資料１－１，資料１－２）

平成 28 年度事業報告について，久保田庶務担当幹事より提案があり，文言を修正の上，運営委員会に諮ることが承認された．また，平成 28 年度決算報告について，河野会計担当幹事より提案があり，文言の修正の上，運営委員会に諮ることが承認された．

4. 平成 29 年度事業計画ならびに予算案について
（資料２－１，資料２－２）

平成 29 年度事業計画について，久保田庶務担当幹事より提案があり，項目および文言を修正の上，運営委員会に諮ることが承認された．また，平成 29 年度予算案について，河野会計担当幹事より提案があり，文言の修正の上，運営委員会に諮ることが承認された．セミナー講師代および交通費について，河野会計担当幹事より問題提起がなされ，審議の結果，次期の幹事会への申し送り事項となった．

5. IFCS-2017 関連事業（セミナー等）について

今泉会長より，IFCS-2017 関連事業について，特にセミナーにかかわる事項について説明があり，審議の結果，平成 28 年度決算報告の中の，セミナーの項目に IFCS-2017 関連の項目を新規に立てることが承認された．また，資料（文書）を基に運営委員会に諮ることが承認された．

6. 日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について

今泉会長より，日本分類学会が主催（共催）する国際活動関連事業について説明があり，審議の結果，当該事業については，IFCS-2017 関連セミナーと同様に学会として対応すること承認された．また，資料（文書）を基に運営委員会に諮ることが承認された．

7. 統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加および統計家の行動基準の提案について

今泉会長より，統計関連学会からの欧文ジャーナル刊行への参加について説明があった．また，今泉会長より，統計家の行動基準の提案について説明があった．審議の結果，運営委員会に諮ることが承認された．欧文ジャーナルにおいては，そのスコープについて引き続き調査が必要である旨が審議され，引き続き検討することとなった．

8. 総会議題(案)

久保田庶務担当幹事より，総会の議題が提案され，運営委員会に諮ることが承認された．

9. その他

今泉会長より学会誌の送付および会費の滞納について問題提起があり，審議の結果，会員資格の停止を会則の第６条に追加することを，運営委員会へ諮ることが承認された．

■閉会の挨拶

最後に，今泉会長から閉会の挨拶が行われ，幹事会が閉会された．

平成 29-30 年度第１回幹事会議事録

開催日時：平成 29 年 5 月 26 日(金) 18：00～20：30
開催場所：多摩大学品川サテライト　ルーム A
〒108－0075　東京都港区港南 2－14－14
品川インターシティフロント５階
出席者：栗原考次（会長，岡山大学），山本義郎（幹事長，東海大学），今泉忠（多摩大学），小田牧子（防衛医科大学校），久保田貴文（多摩大学），酒折文武（中央大学），佐藤美佳（筑波大学），竹内光悦（実践女子大学），冨田誠（東京医科歯科大学），中山厚穂（首都大学東京），水田正弘（北海道大学），宿久洋（同志社大学）　（会長，幹事長以外は五十音順，敬称略）

■開会の挨拶
山本幹事長の挨拶により幹事会が開会された.

議題
■報告事項
1. 幹事会および委員会について
栗原会長より，資料1に基づいて幹事会のメンバーについて運営委員会における審議の結果認められたことが報告された．また，渉外（国際学会活動）とIFCSの担当について変更した旨の報告があった.
酒折幹事より広報委員の構成と役割について報告があった．統計関連学会連合のサーバー上の容量制限について問題提起され，統計関連学会連合のWeb担当へ調査の依頼をすることとなった.
山本幹事長より企画委員の構成と役割について報告があった.

2. J-Stage登録準備について
山本幹事長よりJ-Stageの登録の準備は整ったが，登録は来年度以降である旨の報告があった.

3. 和文誌について
宿久幹事より和文誌について，第6巻第1号について発行された旨，また，第7巻第1号については「社会学における多変量解析の応用」として編集中である旨の報告があった.

4. その他
報告事項なし.

■審議事項
1. 平成29年度事業計画および予算案
山本幹事長より資料2－1，資料2－2に基づいて，平成28-29年度の体制から引き継いだ事業計画および予算案について説明があった．今後の方針として，本案を基に平成29年度総会前の幹事会および運営委員会に修正案を諮る旨，説明があった．今後の日独分類会議の開催時期や，予算化については継続審議となった．また，今後の大会・総会の開催時期については，他学会の動向を調査しながら，継続して審議するとなった.

2. 大会について
栗原会長より，水田正弘氏（北海道大学）を実行委員長として，札幌で開催されることが提案された．また，開催日については予約の都合はあるが，平成29年12月3日～4日を第一案として予約を行うことが提案された．審議の結果，提案のとおり承認された．なお，セミナーは大会とは同時開催しないこと，大会において学生のためのセッションを開催することを検討すること等が継続審議となった.

3. セミナーについて
山本幹事長より，平成29年度の第1回のセミナーは，平成28-29年度の体制での開催として鶴見裕之氏（横浜国立大学）が担当となり，6月～7月頃のIFCS2017開催時期以前に開催すること，新体制の基で，企画担当の豊田幹事，竹内幹事が企画し2017年の秋以降に，大会の時期とは独立した時期に開催することが提案された．審議の結果，提案のとおり承認された． なお，アカデミック関係のセミナーについて，その内容や開催時期等は継続審議となった.

4. IFCS-2017について
今泉幹事（IFCS-2017組織委員長）より，IFCS-2017の登録状況等について報告があった．また，学会員へのメリットを打ち出す旨，学会員への寄付や参加登録のリマインダを送付することが提案され，審議の結果，提案のとおり承認された.

5. 日本分類学会が主催する事業について（特に日独）
今泉幹事より第6回日独分類会議の平成29年8月11日～12日に多摩大学品川サテライトにて開催する案が提案され，会計についてポストプロシーディングについて等の説明があった．審議の結果，提案のとおり承認された．今後，日独分類会議については，学会の事業の一部とするか否かについて，また周知の方法については，継続審議となった.

6. 会則，細則等の変更について
山本幹事長より資料3に基づいて会則および細則等の変更について提案があった．本学会が研究会として発足した当時の経緯の説明があり，日本学術会議協力学術研究団体に登録されたことに伴い，運営委員会を評議員会に，幹事会を理事会へ名称変更すること，および評議員会の定足数を設けるなどの提案があった．また，それに伴って会則，細則等を変更することが提案された．さらに，選挙権・被選挙権についての細則への明記について，選挙の方法についても検討が必要な旨の意見があげられ，継続審議となった.
また，賛助会員の会費について，平成30年度から5万円に変更する旨が提案された．審議の結果，運営委員会に諮ることが承認された．なお，連絡の取れなくなった賛助会員については幹事において確認することとなった.
さらに，大会における学生会員の優秀発表に関する

学会賞について提案がされた．名誉会員やフェローについての議論もなされ，継続審議となった．

7. 会員増に向けた施策について
山本幹事長より，会員増に向けた施策について，問題提起がなされた．学会の名称からの誤解，学会誌について等，議論がなされ，継続審議となった．

8. ADAC について（将来的な会費値上げについての検討）
今泉幹事より，ADAC について，将来的な会費の値上げについて，会費を 7000 円に 2000 円値上げし ADAC の冊子（もしくはトークン）を配布する案が提案され，継続審議となった．

9. 統計関連学会連合の委員等について
(1) 事業委員会（ジャーナル）委員（１名または２名）
栗原会長より中山幹事を事業委員会（ジャーナル）委員として推薦する旨が提案され，審議の結果承認された．
(2) 欧文ジャーナル発行への参加確認及び副編集委員長
栗原会長より学会として欧文ジャーナル発行へ参加する旨，また今泉幹事を副編集委員長として推薦する旨が提案され，審議の結果承認された．
(3) Web 担当委員の推薦
栗原会長より酒折幹事を Web 担当委員として推薦する旨が提案され，審議の結果承認された．
(4) 行動基準（最終案）の最終確認
栗原会長より資料４－２に基づき，行動基準（最終案）を認める旨が提案され，審議の結果承認された．なお，今後の修正案については随時意見を述べていくこととなった．

10. その他
審議事項なし．

■閉会の挨拶
山本幹事長の挨拶により幹事会が閉会された．

事務局から

● 会員情報の変更等について
本年度末に役員改選選挙が予定されております．会員名簿にある住所に投票用紙を送付いたしますので，住所等の変更のある方は事務局（office@bunrui.jp）までご連絡ください．

● 学会誌への論文投稿について
学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください．皆様の投稿をお待ちしております．

和文誌：データ分析の理論と応用
2011 年に第 1 号，2012 年に第 2 号，2013 年に第 3 号，2015 年に第 4 号，2016 年に第 5 号，2017 年に第 6 号を発刊いたしました．会員の皆様の投稿をお待ちしております．
投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp
問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp
なお，投稿規定，執筆要領，投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください．
http://www.bunrui.jp/JCSJournal/

欧文誌：
Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)
ドイツ分類学会(German Classification Society)およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で，2007 年より Springer 社から刊行しております（年間 3 冊）．欧文の論文はこちらにご投稿ください．また，日本分類学会会員は会員価格で購入できます．希望される方は学会事務局までお問い合わせください．

● 会費納入のお願い
会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら，下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます．

(1) 郵便振込の場合
口座番号：00130-6-445739
口座名：「日本分類学会　事務局」
ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：
ゆうちょ銀行　〇一九（ゼロイチキュウ）支店
口座番号：当座　0445739
口座名：「日本分類学会事務局」
ニホンブンルイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は，学会ホームページの「入会のお誘い」(http://www.bunrui.jp/invitation.html) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上，日本分類学会事務局宛お送りください．詳しくは，「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください．申し込み後，幹事会にて入会の承認を行います．承認後，事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます．

■ 編集後記

広報幹事 酒折文武（中央大学）
広報委員 阿部寛康（京都大学）
谷岡健資（和歌山県立医科大学）
横山暁（青山学院大学）

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては，お忙しいところありがとうございました．本紙面を借りて，お礼申し上げます．今年度より年 2 回の会報を発行していく予定です．また，会報のみならずメールニュースや Facebook 等，さまざまな形で情報発信をしていく予定です．ご意見，ご要望，その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら，ご連絡くださいますようお願い申し上げます．

＜学会問い合わせ先＞
日本分類学会事務局
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内
日本分類学会事務局
E-mail：office@bunrui.jp（事務局）
URL: http://www.bunrui.jp/